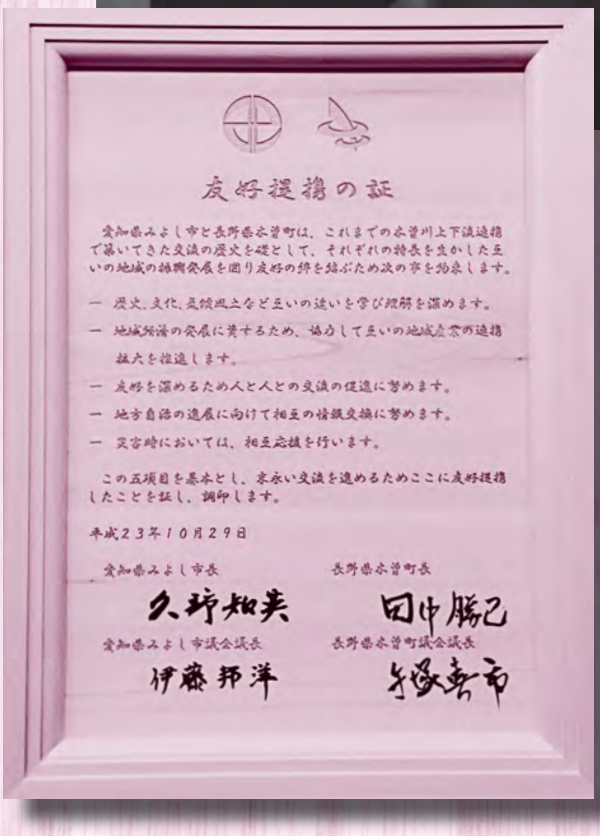
みよし市は長野県木曽町と友好提携を結びました



▲友好提携調印式で木曽ヒノキで作られた友好提携の証に調印を終え、笑顔を見せる久野知英（くのともひで）みよし市長（写真中央右）と田中勝己（たなかかつみ）木曽町長（写真中央左）、伊藤邦洋（いとうくにひろ）みよし市議会議長（写真右）、手塚喜市（てづかきいち）木曽町議会議長（写真左）

◀友好提携の証には文化的、経済的な連携の推進と、人の交流や行政の情報交換、災害時の協力について記されています

◀災害時における相互応援に係る協定書に署名をする久野市長と田中町長

愛知用水の水源地と受益地という認識のもと、長年にわたって活発な交流を行ってきたみよし市と長野県木曽町。その両市町が友好提携を結ぶための「みよし市・木曽町友好提携調印式」が10月29日、長野県木曽郡木曽町で行われました。秋晴れとなったこの日、調印式には、みよし市と木曽町から、市町長、議会議長をはじめ関係者およそ30人が参加。終始和やかな雰囲気の中、両市町の概要について紹介を行い、友好提携の証に両市町長、両議会議長の4人がそれぞれ署名をし、友好提携を締結しました。また、今回の友好提携に伴って「災害時における相互応援に係る協定」も結ばれ、災害時に両市町が協力することを確認しました。

▼問い合わせ＝秘書広報課
☎(32)8032
FAX(34)6008

木曽町データ（平成23年4月1日現在）

▶**人口（世帯数）**＝ 12,843人（5,143世帯）
▶**面積**＝476.06k㎡（みよし市面積のおよそ15倍）
▶**標高**＝木曽町役場…774.8m、開田支所…1,108m
▶**土地利用状況**＝森林…90.3%、農地…2.8%、宅地…1.4%、その他…5.5%

▲夏は涼しく、冬にはスキーが楽しめる開田高原。木曽馬とそばでも有名

▲▼標高3,067mの御嶽山。山頂を折り返し地点に、標高差2,267mのコースで争われる「御嶽スーパートライアスロン」の舞台にもなっている

▼木曽義仲（源義仲）ゆかりの資料が多数展示されている義仲館（木曽義仲関係資料展示館）

木曽町ってどんなところ？

平成17年11月1日に木曽福島町、日義村、開田村、三岳村の4町村が合併し、誕生した「木曽町」。長野県内の町村の中で最も広い面積を有し、霊峰御嶽山、木曽駒ケ岳、貴重な日本在来種の一つ木曽馬の里として知られる開田高原、木曽義仲（源義仲）発祥の地など観光資源の宝庫です。木曽町は、地域の自然・文化を大切に守りながら、全国に新たな木曽ブランドを発信し、住民参加の新しいまちづくりを進めています。

友好提携に至る経緯

昭和33年に愛知用水の要となる「牧尾ダム」建設のため、三岳村の和田・黒瀬地区の7戸が三好町の高嶺地区に移住したのが縁の始まりです。その後、昭和36年にダムが完成。今日のみよし市の発展に欠かせなかった愛知用水が豊かな水の恵みをもたらしました。

愛知用水が縁で始まった交流は、昭和55年に、三好町の野々山茂町長（当時）が、牧尾ダムがある三岳村を表敬訪問したことがきっかけです。その後、子ども会や婦人会、区長会などの各団体が相互交流を深め、昭和58年10

▲みよしを潤す水源地の森であり、環境教育の場としても活用されるみよし市友好の森

▲平成21年度三好いいじゃんまつりでグランプリに輝いた木曽町の踊り連

▲産業フェスタでも木曽町のブースは人気

みよし市･木曽町友好提携への歩み

1958年（昭和33年）＝牧尾ダム建設のため三岳村から7戸が三好町高嶺地区に移住

1961年（昭和36年）＝牧尾ダム完成し、愛知用水が通水

1980年（昭和55年）＝野々山茂三好町長が三岳村を訪問

1981年（昭和56年）＝和形正人（わかたまさと）三岳村長が三好町を訪問。子ども会、婦人会、区長会などの交流が始まる

1983年（昭和58年）＝三好町役場で三好町と三岳村の友好提携を締結

1991年（平成3年）＝三好町が三岳村におよそ7.5ヘクタール（74,942㎡）の森林を取得

1994年（平成6年）＝この年は大渇水となり、三岳村から「御嶽の水」12,000本が三好町全世帯と小中学校、保育園などに贈られた。また、この年から三好いいじゃんまつりに三岳村の踊り連が参加

2000年（平成12年）＝三好町が三岳村の国有林およそ30.3ヘクタール（303,473 ㎡）を取得。「三好町友好の森（現みよし市友好の森）」とする

2003年（平成15年）＝除間伐体験などを含む「友好の森ふれあいツアー」開始

2005年（平成17年）＝三岳村が木曽福島町、日義村、開田村と合併し木曽町に。友好提携は一度白紙になったが、住民同士の交流は続く

2010年（平成22年）＝三好町が市制施行してみよし市に

2011年（平成23年）＝みよし市･木曽町として友好提携締結

月14日、三好町で三岳村との友好提携の調印を行いました。以来、交流が重ねられ、平成3年・12年には、みよし市が御嶽山の裾野にある37・8ヘクタールの森林を取得。「三好町友好の森（現みよし市友好の森）」として整備し、多くの住民が友好の森を訪れ、除間伐体験を通して森や水源地の大切さについて学んでいます。

その後、平成17年11月1日、三岳村は平成の合併により、木曽町という新たな自治体に生まれ変わりました。それにより旧町村単位での友好提携については一度白紙状態となりました。しかし、合併後も「三好いいじゃんまつり」や「産業フェスタみよし」をはじめ、住民を中心に交流は続きました。

平成22年1月4日三好町が新たな飛躍を目指し、みよし市へと市制施行。その年の2月に木曽町から、みよし市に長年の交流の状況を踏まえ、友好提携締結の申し入れをいただきました。以後、両市町の議員交流会などを経て、今回の友好提携締結となりました。

また、東日本大震災をはじめ、近年の多発する洪水など、さまざま災害が懸念される中、自治体同士の災害時における相互応援協定についても必要な施策の一つとなっています。今回の友好提携に合わせ、みよし市と木曽町も、災害時における相互支援について協定を結び、互いに速やかな支援活動を実施します。